

# 「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入年月 2018年12月

都道府県名	福岡県		河川名	朽網川（そばの休耕田）					
事例タイトル	地域の生物多様性保全と自然体験の場を創出する試み								
写真									
水系名／河川名	朽網川（そばの休耕田）		場所	福岡県北九州市小倉南区曾根新田					
位置情報（緯度経度）	33.811556, 130.964778		活動開始年	2018年					
活動概要 (経緯・目的等)	<p>「ぎよぶたんぼ・プロジェクト」と名付けて、休耕田をお借りしてちよとした水たまりを創出する試みを始めました。</p> <p>①水田周辺の浅い湿地を好む水生昆虫などは、浅い水たまりを創出することで利用があるのか、つまり人為的で意図的な湿地再生は、地域の生物多様性保全に寄与できるのか。他の生息環境が奪われても、代替の場を創出することで、その地域の生物相の「自然の無事」はある程度保つことは可能なのか。</p> <p>②人間側の事情なのだが、小さな子どもや保護者である大人が安全に身の回りの自然にふれ、自然の面白さや楽しさに気づく場ができるのか。</p> <p>この2つの目的のもと、ワクワク楽しい活動を目指しています。</p>								
再生の手法	簡易魚道		簡易水制（巨石・ブロック）		バープ工（上向き水制）		石倉かご・竹蛇籠		植生ロール・ポット
	魚道改良		たまり・わんど造成	○	河床攪乱		その他（記述）	休耕田に湿地創出	
実施体制 (活動の担い手)	市民・市民団体	○	河川管理者（国）		河川管理者（都道府県）		河川管理者（市町村）		河川管理者以外の地元自治体
	大学・研究機関		学校（小中高）		企業		その他（記述）		
工夫した点	<p>・「川とか池とか本格的じゃなく、田んぼのような場所でいいので、小さな子どもと親とが一緒に自然体験できる場があるといいのだけど・・」という若い母親の言葉を数年前に聞いたところから始まりました。</p> <p>・いちばんの苦心は、場所探し。農家の魚部員は近くにはいないし、そもそも田んぼは米を作っているの自由に入ったりなどはできません。休耕田であっても、大事な田んぼをそういう目的で貸していただけるか先行きは全く不透明。</p> <p>・休耕田を借りられないかと探していたら、環境や地域活動もなさっている地区の農政委員さんに出会い、その方から場所と持ち主を紹介していただけるという幸運に恵まれました。しかも、そこは希少なゲンゴロウを自分たちが発見していた場所のそばで、さらにその発見地は新たな道路工事で消失しそうな状況にありました。</p>								
今後の課題	<p>・第一に、水確保の問題があります。通水時期しか取水できないので、降雨に頼らざるを得ない現状です。また、通水時期もいちばん海側（＝曾根干潟）に近い田んぼであり米を作ってもないので、水確保に苦戦しています。稲作期以外の水の問題をふくめ、まずは自分たちのビジョンを再構築し、そのうえで地域と相談していこうと考えています。</p> <p>・「魚部」だけに水生動物に注目しがちですが、陸生昆虫をはじめ水田環境全体の生物相を把握できるようにしていきたいと考えています。</p>								
効果 (直接的な効果・間接的な効果)	<p>・1つめの目的検証のために水生昆虫をはじめとした生物種の確認調査やモニタリングに取り組んでいます。希少ゲンゴロウのシマケシゲンゴロウを含め、全32種を現在確認（水生昆虫19種、淡水魚類1種、淡水貝類5種、両生は虫類4種、甲殻類3種）。</p> <p>・2つめの目的達成のために、水たまり創出の作業体験や生き物観察会、あるいはライトトラップ体験などの場として活用しているところです。また環境学習施設「北九州市水環境館」と協働し、体験活動を実施もしています。</p>								
関連URL等	<a href="https://gyobu.or.jp/">https://gyobu.or.jp/</a>								